

- ホンジュラス共和国にスケーラブルVRの成果が導入
 - 平成18年1月11日
-

独立行政法人情報通信研究機構(以下NICT。理事長:長尾 真)は、NICTのスケーラブルVR(バーチャルリアリティ)プロジェクトの研究成果実証用コンテンツを凸版印刷株式会社(以下凸版印刷。本社:東京都千代田区、代表取締役社長:足立直樹)にライセンスすることとし、その一部がホンジュラス共和国の博物館に導入されることになりました。

NICTは平成13年度から4年間にわたり、駒場SVRリサーチセンターにおいて「スケーラブルVRコンテンツの生成・共有技術の研究開発(※1)(プロジェクトリーダー:廣瀬通孝)」を実施し、その実証の一環としてコパン遺跡(※2)の三次元シーンデータ(※3)をもとに臨場感に富み、かつ精緻に再現したスケーラブルVRの研究成果実証用コンテンツを制作しました。

またスケーラブルVRの研究成果を広く周知するため、同コンテンツを使用したVRソフト「古代マヤ文明 -仮想考古学でめぐるコパン遺跡-」を制作し、平成15年に国立科学博物館で開催された「神秘の王朝 マヤ文明展」や、平成17年の「愛・地球博」中米共同館においてデモンストレーションを実施してきました。

この度こうした研究成果がコパン遺跡のあるホンジュラス共和国政府に認められ、NICTは、共同研究先である凸版印刷に対してスケーラブルVRの研究成果実証用コンテンツをライセンスし、同国首都テグシガルパの博物館(MUSEO PARA LA IDENTIDAD NACIONAL)のVRシアターに研究成果実証用コンテンツの一部である三次元シーンデータが導入されることになりました。

なお、同VRシアターは2006(平成18)年1月19日にオープン予定です。

<問い合わせ先>

情報通信研究機構 総務部 広報室
奥山 利幸、大野 由樹子
Tel: 042-327-6923、Fax: 042-327-7587

<研究内容に関する問い合わせ先>

情報通信研究機構 総合企画部
知財・産学連携室
澤田史武
Tel: 042-327-7464
Fax: 042-327-6659

用語解説

※1 スケーラブルVRコンテンツの生成・共有技術の研究開発

大画面シアター、パソコンのディスプレイ、PDAなどの性能の異なる機器を相互に接続した混在型VR環境の実現に必要な技術を確立し、体験型や協調型の学習システムなどへの適用を目的とした研究開発。



左図：スケーラブルVRで再現したコパン遺跡
(写真は「神秘の王朝 マヤ文明展」のもの)

※2 コパン遺跡

コパン遺跡はマヤ文明(紀元前400年頃から西暦900年頃に現在の中米で栄えた古代文明)を代表する都市遺跡の1つで、考古学的に重要な彫刻等が多く残っている。

※3 シーンデータ

対象物の形状や材質感、他の対象物との関係などをコンピュータが処理可能な形で表現したもの。